

自他を尊重し、一人一人が互いに認め合える児童の育成と 非認知能力に関わる研究

—実態に基づいたソーシャル・スキル・トレーニング（SST）を
取り入れた学級づくりプログラムの作成・活用を通して—

【研究構想図】

長期研修員 野口 陽子

自他を尊重し、一人一人が互いに認め合える児童

学級づくりプログラム

共感的な人間関係

ルールの定着

安心して交流

リレーションの形成

非認知能力における「自尊感情」と「共感性」が高まる

学級活動

算数

国語

話し合い活動

スキルの活用・定着

可視化した
スキルを客観視

自分の行動が認められる・他者との協力

事後の活動

自己の課題にチャレンジし、身に付けたスキルを活用・定着

スキルを
ICTで録画

本時

<分布3>
SST

【言葉の掛け方】

「すごいね」「がんばれ」
「大丈夫」
「ありがとう」

<分布4>
SST

【話の聴き方】

「体を向ける」
「話す人を見る」
「あいづちを打つ」

<分布5>
SST

【相手の気持ちを
理解する】

「相手を観察する」
「感情を読み取る」

実態に基づいたSSTでスキルを身に付ける

事前の活動

アンケートから学級内の問題を発見・確認

プログラムⅡ
(各教科・学級活動)

プログラムⅠ
(学級活動)

児童生徒理解：日常観察による理解＋客観的な理解（C&S質問紙）

C&S質問紙
とは？

- ★自己肯定感と学級の雰囲気客観的に把握できる。
- ★一つ一つのプロットで個、プロットの分布で集団を把握できる。
- ★6つのタイプに分類され、学級の援助・支援方法が分かる。

【児童の実態】

- ・多様性に富んでいる。
- ・人間関係づくりが苦手である。

【国や県の課題】

- ・「学びに向かう力、人間性等」の育成
- ・非認知能力の育成

【教師の願い】

- ・実態に基づいた学級づくりの方法を知りたい。

【実態に基づいたソーシャル・スキル・トレーニング（SST）を取り入れた学級づくりプログラム】実践例

分布5 SST 【相手の気持ちを理解する】

- 日常観察による理解
 - ・優しい声掛けをより増やしたい。
- 客観的な理解
 - ・受容する態度を通して信頼関係を築くことが必要。



実態に基づいたSSTでスキルを身に付ける

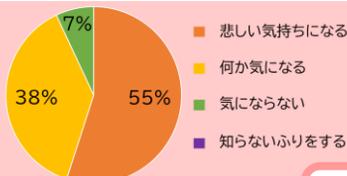
相手を観察することで、相手の感情を読み取ることができるよ。

事後の活動

あなたはすごいと思ったんだね。ぼくもすごいと思ったよ。

事前の活動

友達が泣いていたらどう感じますか。



いろいろな感じ方を確認。

相手の気持ちを理解するための手掛かりだね。

相手を観察しながら伝えよう！「やったね。私も嬉しいよ。」

スキルをICTで録画

ぼくの考えが認められた。嬉しいな。

みんなで協力すると相手側の気持ちも分かるようになるね。

スキルの活用・定着 (国語：話し合い活動)

「認められる」「みんなで協力」非認知能力における「自尊感情」と「共感性」の高まりを感じますね。

ルールの定着

この意見もよいと思うけど、こっちもよいと思います。

リレーションの形成

安心して交流

みんなにほめてもらえた！言ってよかった。安心！

私もこの意見、よいと思います。

共感的な人間関係

みんなが気持ちを理解してくれるから安心して伝えられるね。

プログラムⅠ
(学級活動)

プログラムⅡ
(各教科)

成果

実態に基づいたソーシャル・スキル・トレーニングを取り入れた学級づくりプログラムを行ったことで、自他を尊重し、一人一人が互いに認め合える児童の育成につながるとともに、非認知能力における「自尊感情」と「共感性」が高まった。

課題

自他を尊重し、一人一人が互いに認め合える児童の育成に向けて、自己肯定感が高まるための具体的なフィードバックの仕方を取り入れていくことや非認知能力の様々な視点で学級づくりを考えていく必要がある。

提言

児童理解に基づく具体的な指導や支援を継続的に行い、児童生徒一人一人が安心して学校生活を送れるように非認知能力の視点も踏まえ、「学級づくり」を考えていきましょう。